

コミュニティ・スクール新聞

発行所
藤枝中校区
学校運営協
議会事務局

新年度が始まる

令和4年度のコミュニティ・スクール活動が始まりました。折しも、桜の花が美しく咲き誇る季節からのスタートとなりました。本年度はコミュニティ・スクールディレクターが一人増え、2名体制となりました。また、藤枝中校区の3つの小学校長が代わりました。そこで、新たに学校長になられた方々にコメント

藤枝小学校長 鈴木 宏征



この4月の異動で、葉梨中学校から赴任して参りました。長い歴史と伝統のある藤枝小学校に勤めさせていただくことに身の引き締まる思いがしています。

また、その一方で、以前お世話になった藤枝中央小学校では、地域・保護者の皆様が学校を大切にしてくださっていることが様々な場で感じられ、たいへん心強かったことを懐かしく思い出します。義務教育9年間の子どものための学びと成長を、切れ目なく充実したものとしていくためには、小中学校の連携はもちろんのこと、藤枝中学校区に関わる多くの皆様の協力が必要です。学校を開き、地域の教育拠点としての役割を果たしていくことができるよう一生懸命努めて参

桜の開花と共に始まった新年度

りますので、今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願いいたします。

藤枝中央小学校長 飯塚 稔文



4月7日に入學式、始業式を終え、全校児童462名で令和4年度がスタートしました。新しいクラスの仲間や新しい先生と共に張り切っている様子が、子どもたちの表情や挨拶から伝わってきます。子どもたちの元気な声が学校中に響いて

います。藤枝中学校区は、昨年度、学校運営協議会が発足し、コミュニティ・スクールがスタートしました。これにより、保護者・地域・学校が「目指す子ども像」を共有しながら、三者が一体となって子どもを育ていく基礎が固まり、早速「こに

静岡新聞社役員 横山 秀雄

小・中学とサッカーをやっていた。当時のスパルタ指導は「愛の鞭」。何かにつけ「水道山」階段の登り降り、「瀬戸川」堤防のランニングをよくやらされた。高校まで自宅から一番近い学校に通い狭い世界しか見てこなかった自分が、三度に渡る東京での生活を経て、今は藤枝から静岡市の会社に通う。この地に住むのは、やはりここが一番落ち着

ふるさとの先達!

くからか。実家に戻り10年余、休みの日に自宅周辺を散歩する。散歩コースは、気付けば辛い思い出の道を今は好んで巡っている。

4月から会社が打ち出したビジョンは「Live Local, Be Global」。不確かな時代の中、自分に向き合う気持ちがあれば、なんだってできる。東京でできて藤枝でできないことはない。若者には特に大きな声で伝えたい。

こあいつ運動に見られるように、具体的な活動が進められています。本年度も、藤枝中学校区の子どものための健やかな成長を願いながら、皆様と手を取り合って教育活動を進めて参りたいと考えております。ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

稲葉小学校長 村上 伸明



稲葉小学校は27人の1年生を迎え、令和4年度を全校児童125人でスタートしました。高学年のリーダーと一緒に登校してくる子どもたちとともに、稲っ子守り隊の皆様も子どもたちの登校に寄り添ってくださっています。さらに、校舎に入ると地域の方々が花を絶やさず生けて下さっています。読み聞かせを楽しみにしている子どもも多くいます。多くの地域の方に支えられ、地域とともに歩んできた学校であることを感じるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになります。令和4年度も感染状況を見ながら、ということになりますが、「はばたけ!ふるさとの誇りを担う子どもたち」を意識して教育活動を進めていきます。今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力をお願いいたします。